関係者各位

国際交流基金ロンドン日本文化センター

2012年12月の教育省による初等教育Key Stage2(Year3-Year6、7歳～11歳)の外国語教育と中等教育Key Stage4 (Year10-11、14歳～16歳)とqualifications(GCSE)に関するパブリックコンサルテーションにご意見をご提出いただいた皆様、どうもありがとうございました。

今般、教育省より、これらコンサルテーション回答結果をまとめたレポートが出され、また同時にイングランドのナショナル・カリキュラムの改定案が提示されました。この新ナショナル・カリキュラム案については4月16日を締め切りとして新たなコンサルテーションが実施されています。（コンサルテーション回答結果レポートと新カリキュラム案のポイント、および教育省の該当ページやオリジナルドキュメントへのリンクは、下部をご覧ください。）

Key Stage2の外国語教育に関するコンサルテーションにおいて、教えるべき言語のリストを7言語のみに限定することに反対する回答が61%、また13%がリストに日本語を含めるべきと回答したにも関わらず、新ナショナル・カリキュラム案では、Key Stage2で教えるべき言語リストは当初の案（フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、スペイン語、ラテン語、古典ギリシャ語）のままであり、日本語は含まれていません。これは初等教育段階での日本語教育促進の阻害となることが懸念されます。

また、中等教育Key Stage3（Year7-Year9、11歳～14歳）の現代外国語については、新ナショナル・カリキュラム案がKey Stage2とKey Stage3の言語学習の連続性・継続性を示唆しているように見受けられることから、各学校はKey Stage3で教える現代外国語を、Key Stage2での言語リストうちの現代外国語（フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、スペイン）の中から選ぶことが多くなり、日本語の選択が減る傾向が出る可能性が懸念されます。

国際交流基金ロンドン日本文化センターでは、国際相互理解の増進を促進するために日本語教育を推進し、日本語学習環境の整備に努めている立場から、新ナショナル・カリキュラム案について意見を提出するつもりです。

当センターからの回答では、Key Stage2で教える言語リストに日本語も含めるか、あるいは学校が自由に言語を選べるようにするよう再度求める他、Key Stage3では、Key Stage2で教えるべき言語リスト（7言語）以外の外国語も自由に教えられることを明確にすべきである旨言及する予定です。この他にも、新ナショナル・カリキュラム案の外国語の記述は言語運用能力に比重がかかりすぎているという点も言及する考えです。外国語教育としての日本語教育は「日本語」という言語のみならず、日本語学習を通して日本が持つ世界観、価値観を示す機会ともなっています。例えば、東日本大震災の際、示した行動様式、日本の技術・経済を支える労働意識など、日本がもつ文化には英国の児童の市民性育成に寄与する要素が多くあると思います。英国における日本語学習を初めてとする諸外国語教育の多様性の衰退は、英国社会における文化的・価値的多様性に対する理解や寛容性の衰退にも繋がるゆゆしき問題だと考えます。

皆様も日本語教育、日本研究、日英文化交流、英国でのビジネス等々、日本と英国に関わるそれぞれのお立場から、新ナショナル・カリキュラムに関するコンサルテーションにおいて日本語教育をサポートするご意見の提出をお願いいたします。

○教育省のナショナル・カリキュラム改革のコンサルテーションページ

（締切：2013年4月16日）

<http://www.education.gov.uk/aboutdfe/departmentalinformation/consultations/a00221262/reform-national-curriculum>

Wordの回答用紙をダウンロードし記入の上、メール添付か、以下の教育省のウェブページのオンラインフォームに添付をして、提出。

<https://www.education.gov.uk/aboutdfe/departmentalinformation/consultations/submit>

**コンサルテーション結果レポート**

コンサルテーション結果レポートのうち外国語教育と日本語に関するポイントは以下のとおり

**【初等教育Key Stage2の外国語に関するコンサルテーション】**

<https://media.education.gov.uk/assets/files/pdf/c/ks2%20choice%20of%20languages%20consultation%20report%20final%2005-02-13.pdf>

・全回答数601。

・「フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、スペイン語、ラテン語、古典ギリシャ語のうち1言語以上を教える」という案に対し、賛成33%（回答数185）、反対61%（回答数343）。

・13%（回答数67）が日本語をKey Stage2で教えるべき言語リストに加えるべきという意見（※キャンペーン実施による影響）。

**【中等教育Key Stage4とqualificationsに関するコンサルテーション】**

<http://media.education.gov.uk/assets/files/pdf/r/reforming%20key%20stage%204%20qualifications%20consultation%20response%20final.pdf>

・全回答数5,496。

・（教育省からの回答として）GCSE（General Certificate of Secondary Education）の見直しを続ける。（ただし、GCSEに代わるものとしての「English Baccalaureate Certificates」の導入はなし。）

・75%の回答が現在のGCSE試験に含まれる全ての外国語を新資格試験中に含めることに賛成。

・新資格試験に入れる外国語として最も回答が多かった言語は日本語（※キャンペーン実施による影響）。

・（教育省からの回答として）見直し後のGCSEにはより幅広く現代外国語および古典外国語を含めたい。どの外国語を含めるかは一義的にはAwarding Orgnisations　（資格認定団体）が本件により影響を受けるような教師、専門団体・協会などと協議し決定。

**新ナショナル・カリキュラム案**

新ナショナル・カリキュラム案の言語/外国語に関するポイントは以下のとおり

<http://media.education.gov.uk/assets/files/pdf/n/national%20curriculum%20consultation%20-%20framework%20document.pdf>

**【初等教育Key Stage2】**

・言語（languages）は必修。

・フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、スペイン語、ラテン語、古典ギリシャ語のうち一つの言語について、生徒が十分に進歩するよう集中して教なければならない。

**【中等教育Key Stage3】**

・現代外国語（modern foreign languages）は必修。

・いずれの現代外国語を教えても良く、Key Stage2で積まれた基礎（the foundations laid at Key Stage2）の上に構築しなければならない。

**【中等教育Key Stage4】**

・現代外国語は必修ではない。

・すべての生徒はarts、design and technology、humanities、modern foreign languagesの4つのそれぞれの分野に含まれる科目を学ぶことができる法定の権利（statutory entitlement）を有する